

## 1. はじめに

人類の 500 万年の長い歴史の中で、受けつがれてきた赤ちゃんの健全な育児環境が、ここ二、三十年の間に加速的に変貌し、赤ちゃんが、将来、社会人として生きていくために必要な感性、創造性、努力持続性等々が、健全に育まれない環境に変わっています。

赤ちゃんが将来、立派な社会人として生き抜くために必要な能力が十分に与えられないまま育てられるという“人権侵害”の状況になっています。（全国全ての家庭でこうなっていると主張するものではありません。しかし私が実施した長期意見調査、アンケート等を踏まえた経験では半数以上の家庭で私の言う“人権侵害”の状況で赤ちゃんが育てられていると確信します。）

非常に悲しむべきことに、全国の赤ちゃんの恐らくは半数近くが誤った（…というよりは人類 500 万年の子育て環境から著しく逸脱した）昨今のメディア環境：

- ハイビジョン映像、大型スクリーン、テレビ、携帯、スマートフォン、タブレット型端末等々の情報機器が赤ちゃんのまわりに存在するという昨今のメディア環境
- 夜 8 時以降も真昼のような明るさを与える家庭内の生活環境
- テレビ、CD、DVD、（超早期教育が必要と主張する人達が売り込む）英会話ソフト（CD、DVD、タブレット端末）の音があふれる生活環境

にあります。まさに赤ちゃんが健全に育つべき環境が破壊されています（このことに気付く人が非常に少ないのです）。この 20 年間（人類 500 万年の歴史から考えると非常に短い期間）に子育て環境は激変していることに気付いてほしいです。

非常に悲しむべきことに、この現状を訴えてみても殆どの人が“きょとん”とした顔をするか、あるいは、こんなことを訴えてみても

“現代社会、ネット環境に背を向ける老人”

“テレビや携帯、スマートフォン等を嫌っている一昔前の人間”

という反応が多く返ってくるということです。

本日は 500 万年の歴史を振り返り昨今の子育て環境の現状を皆様と一緒に考えさせていただきたく存じます。よろしくお願いします。

## 2. 赤ちゃんの本当の姿は？

——実は非常に特異な存在であることをご存知でしょうか——

- 500 万年前、森から草原に進出した人類は直立二足歩行を開始、ヒトはホモ・サピエンス（かしこい人）への道を歩みはじめる
- その報いとして女性の産道が縮小、正常な赤ん坊を産むことが危険となる
- “早期出産”でこの問題を解決したものの、高等哺乳類の赤ん坊の中では特異な存在、唯一“子宮外胎児”と呼ばれる存在、すなわち下等哺乳類特有の“就巢性”動物に属するという事にな

りました。例えば下等哺乳類のドブネズミも、ヒトの赤ん坊と同じ、“就巢性”です

- ヒトの赤ん坊以外の高等哺乳類の赤ん坊は例外なく、全て“離巢性”です。因みに平均 100 グラム以下というパンダの赤ちゃんも立派な離巢性で巣は必要ではありません

ヒトの赤ん坊と高等哺乳類のヒトの赤ん坊の間には図 1、図 2 に示したような決定的な差があります。

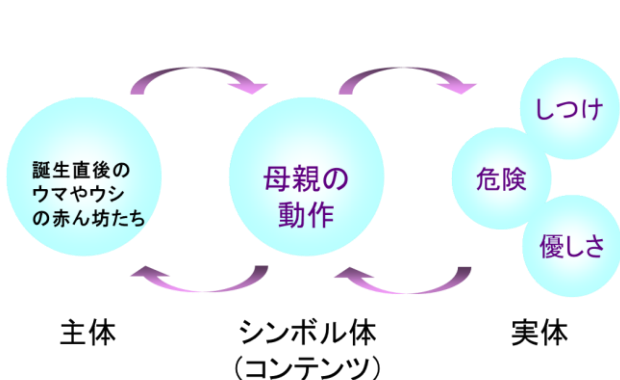


図1 高等哺乳類の赤ん坊とシンボル

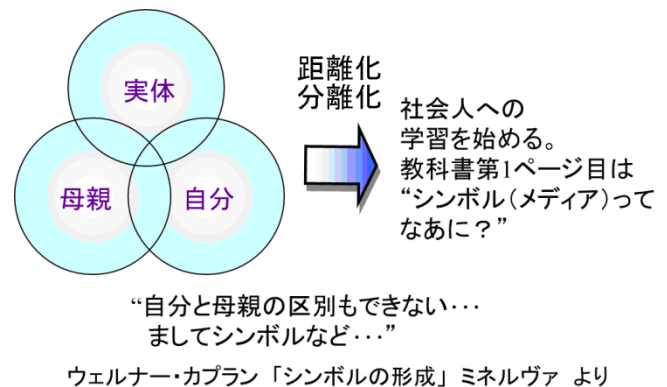


図2 ヒトの赤ん坊とシンボル

ヒトの赤ん坊は就巢性であるが故に、健やかな成長を助ける“巣”が必要です。

人類 500 万年間、親から子へと確実に受け継がれてきた乳幼児成長環境が今、図 3 のように突然に変貌しています。500 万年という長い歴史で守られてきた子育て環境がこの僅か 20 年という期間に“異常な変化”が起こっていることを一人でも多くの方に気付いていただきたく存じます。

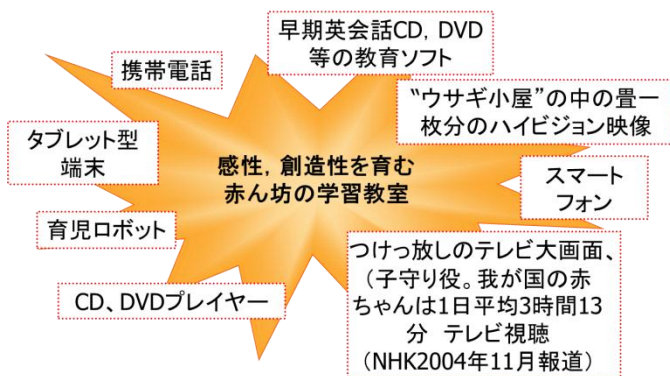


図3 赤ん坊たちの“巣”は雑音、私語だらけ

図3に示した“巣”に将来、必ず忍び寄るであろう大きな影の存在に人々は気付くべきと強く、非常に強く確信しています。その影とは以下に述べる出来事に端を発するであろう巨大な影のことです。

下記引用文章は 2015 年電子情報通信学会から出版予定の拙著

“21 世紀コンテンツの時代を人は如何に生きるか”

に記述している文章をそのままご参考までに示したものです。

2014 年 5 月 15 日、教育再生実行会議は英語を小学校正式教科に格上げが提言されている。世界で活躍するグローバル人材の養成が謳われているが、筆者自身はこの提言、この目標に大きな疑問を感じている。

英語は言葉であり、まさにロゴスである。r と l の区別等をはじめとする Listening, Speaking の能力をネイティブのレベルに上げ得たとしても、これらの能力はロゴスではなくテクネーの部分である。幼少年世代にはロゴスとしての感性、創造性、努力持続性を涵養することがロゴス（心）としての英語を本物にすることに繋がると確信する。

筆者自身、大学院修了後、米国企業（AT&T、ベル電話研究所）に就職したが、英語力よりも感性、知性、母国の文化・歴史に関する知識等の方がはるかに大きな味方をしてくれたと痛感している。

私が非常に恐れているシナリオは以下の通りです。

小学校 5 年生、6 年生の英語力を強化、正式科目に格上げ



一クラスの生徒数を考慮して個別英会話力強化は難しく  
結局タブレット型端末、ヘッドフォンをつけた AV 機器支援の英語教育となる。  
五者択一式テストが中心となる



5 年、6 年のスタートでは遅いという口実のもと  
英語教育 AV 機器による学習が低学年生徒の日常の学習に加わる



上記が普及した後、  
保育園、幼稚園に英会話、英語アニメの AV ソフト、AV 機器が売り込まれて登場



r と l の発音能力、識別能力は誕生後の 8 か月が勝負ということをセールスポイントとして、  
赤ん坊の“巣”に英会話ソフトが持ち込まれ、一日当たり数時間、垂れ流しという状況となる



赤ちゃんが将来、立派な社会人として生き抜くために必要な  
●感性 ●創造性 ●理性  
●知性 ●努力持続性  
が育たない。赤ちゃんの人権が決定的に侵害される

### 3. むすびにかえて

赤ちゃんの現在の子育て環境について私が強く危惧するところを率直にお話ししました。因みにこの訴えは私のホームページ“HP：笠原正雄 HP”で閲覧して見ていただけるようになっています。この HP には沢山の女子学部学生さん、女子大学院学生さん、もと小学校の先生（女性）といった方々から多くの前向きコメントをいただいております。これらのコメントも合わせて閲覧下さいませ。

#### 最後に一言

本年 5 月の教育再生実行会議提言がスタートラインとなって AV 教育ソフト業者を巻き込んだの、英語力強化がいわば国家的スケールで、繰り広げられるでしょう。英語という言葉はプラトンが生きた古代ギリシャの時代にもどって考えれば、“ロゴス（心）”であって Listening、Speaking の部分は単なるテクネー（術）です。

将来、日本の若者が英米人そっくりのネイティブスピーカーとなったとしても、こういった AV 教育ソフト業者を巻き込んだのテクネー（術）教育は言葉の真面目（しんめんもく）たる心、智性、感性を養う機会を大きく失わせ、英米人から全く相手にされない“人づくり”に過ぎなかったということ、将来、必ず知ることとなるでしょう。